

池田町の財政を考える (第3回) 町の貯金が大ピンチ!



**基金（貯金）が
底をつくと異常事態に**

いま町の財政は大変深刻な問題に直面しています。

令和元年度補正予算では財政調整基金からの取り崩しが4億円、令和2年度当初予算では取り崩しが2億7千万円となり、基金が底をつくことが明らかになりました。事実、2月町議会では、町側がこれを裏付ける次のような答弁をしたのです。

「（新規積立がなければ）町の財政調整基金残高が、令和1年度末で2億9千万円、令和2年度末で1700万円になる」

財政調整基金とは、緊急時や年度間の財源調整用に用途を限定せずに使える財源ですから、どの自治体でも一定額を必ず積み立てておく「貯金」なのです。それが来年度にはほぼゼロになってしまふというのですから、通常はあり得ない異常な事

態という他はありません。

基金（積立金）は3種類

町の基金（積立金）には、財政調整基金、特定目的基金、減債基金の3種類があります（下の表参照）。

池田町は過去一貫して特定目的の基金は少なく、何にでも使える財政調整基金を中心に積立をしてきました。しかし、2011年度から財政調整基金を減らして特定目的基金を増やしはじめました。これは方針が変わったからではなくて、社会資本総合整備事業推進などの必要に迫られてのことなのです。

松川村は、一貫して特定目的基金をかなり前から準備して多額の貯金をしており、池田町とは考え方が全く違います。

たとえば、今から10年前に完成した松川村「すずの音ホール」はそれに先立つ10年も前から積立を開始し、基金積み立て総額

7億5千万円で借金なしでホールの建設を終えたのです。

緊急時に対応できない

一時的・緊急避難的な措置であれ、基金を食い潰すやり方をすれば、町の財政は予測不能な事態を引き起こす恐れがあります

す。たとえば、大災害等の緊急時に対応出来ないばかりか、本当に町民に必要な財源にまで手をつけなければならなくなることも起こります。

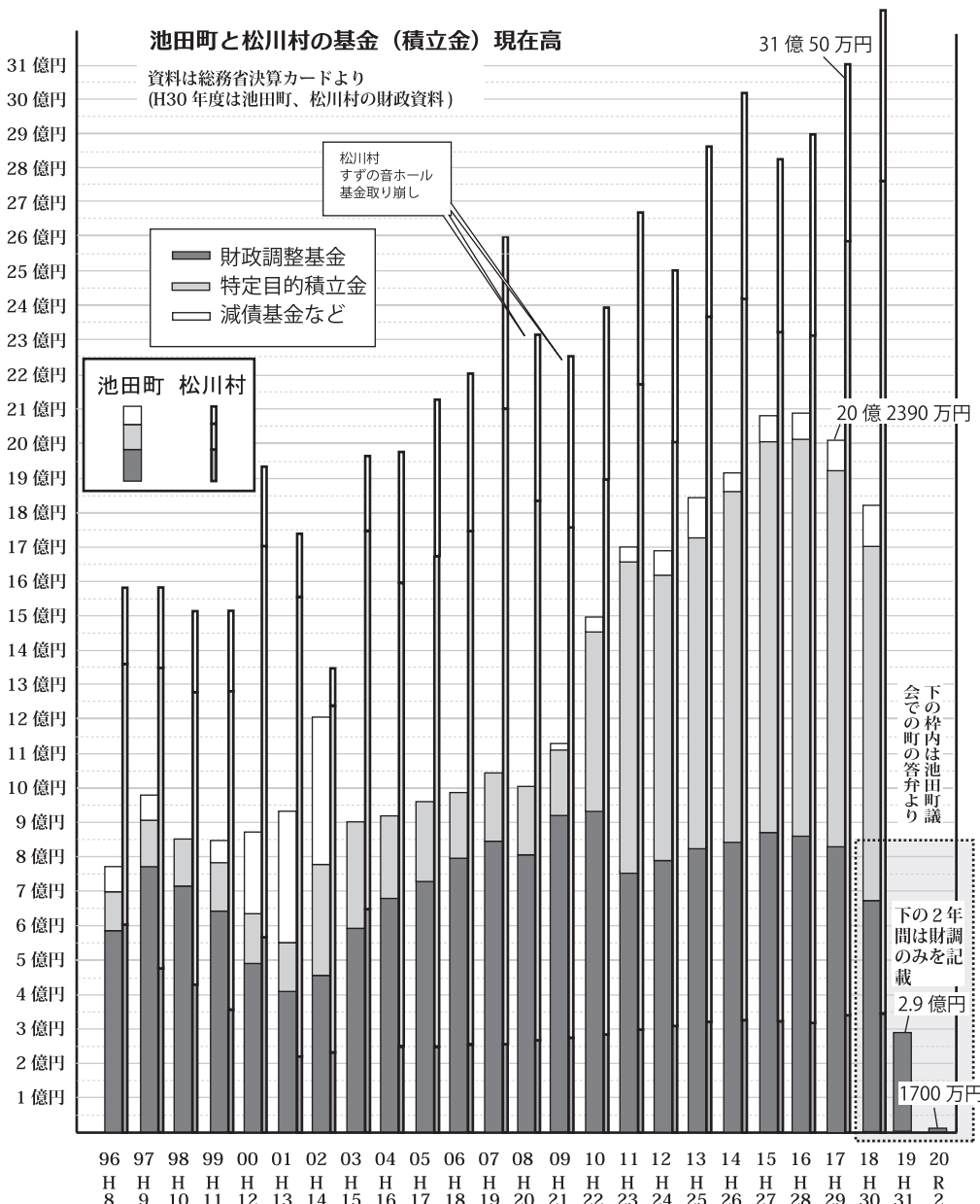
本来なら来年度の予算で必要な対策を講じなければならないはずでした。しかし、危機感も

十分な議論もなく議会で承認されてしまいました。

今からでも遅くありません。補正予算の決定時までには真剣な検討を重ね、傷口を大きくしないうちに抜本的な対策を練り上げ、速やかに実施に移すことが必要です。

池田町と松川村の基金（積立金）現在高

資料は総務省決算カードより
(H30年度は池田町、松川村の財政資料)



(村端浩)